

## <要旨>

八幡平市安比高原のシバ草原は放牧の停止により森林化が急速に進んでいることから、安比高原ふるさと倶楽部ではこのシバ草原を再生・維持するため刈り払いなどの管理を行ってきている。しかしながら、全体的な保全管理計画がないまま事業が実施されていることから長期的な目標を踏まえた計画的な維持管理が課題となっていた。また、地域の人口減少、高齢化により草原管理の担い手の確保が困難となりつつあり、効率的な管理を行う必要があった。これらの課題を解決するため、安比高原の持続可能な草原管理のための長期的な目標、実施計画を策定した。

## 1 研究の概要（背景・目的等）

岩手県八幡平市安比高原には、安比牧野と呼ばれるシバ草地を中心とした半自然草地がみられるが、畜産などの第一次産業の環境変化により放牧が行われなくなり、森林化が急速に進んだ。全国的に希少となった景観である半自然草地、特にシバ草地が見られる安比牧野においても草地面積が減少している。安比高原ふるさと倶楽部はこの半自然草原を再生するため刈り払いなどの管理を行ってきたところであり、その効果等については、平成27年度地域協働研究「安比高原シバ草原の自然再生に関する研究」を実施し、生態学的な見地から自然再生の効果が上がっていることを確認するとともに今後の管理方針を立案するための基礎的な情報を得ることができた。しかしながら、全体的な保全管理計画がないまま事業が実施されており、長期的な目標を踏まえた計画的な維持管理を行う必要があることが今後の課題として提示された。また、本研究の提案者である「安比高原ふるさと倶楽部」は、有償の草原再生ボランティアを地元で募集しているが、人口減少と高齢化により、年々参加者が減少しており草原管理の担い手の確保が困難となりつつある。安比草原の維持管理を地元だけに頼っているのは近い将来困難になることは明らかであり、人口の多い都市住民や企業の協力を得て持続可能な草原管理を行う必要がありその方策についても早急に検討する必要があった。

## 2 研究の内容（方法・経過等）

### 1) 安比草原の再生・維持のための長期的な保全管理目標の検討

・文献調査により安比高原の草原再生・維持の方向性を確認するとともに、平成27年度の地域協働研究成果等に基づき、長期的な保全管理目標を検討する。

### 2) 安比草原の事業実施計画の検討

上記保全管理目標を達成するため、以下の項目について検討し事業実施計画を策定する。

・草原の低コストで少人数でも実施可能な維持管理方法、中長期的維持管理計画について、各地の事例等を参考に科学的な観点から検討する。

### 3) 安比草原の持続的な維持管理のための担い手確保方策の検討

上記維持管理計画を実装するために必要な担い手の確保方策について各地で行われている事例を収集し安比草原の管理に適した方策を検討する。

## 3 これまで得られた研究の成果

### 1) 安比草原の再生・維持のための長期的な保全管理目標の検討

・文献調査により安比高原の草原再生・維持の方向性を確認した。はじめに最も基礎となる安比高原の自然環境と土地利用の歴史について整理した。

安比高原の草原は、花粉分析の結果、平安時代後期から現在まで千年間草原が広がっていた。明治期に岩手種馬育成所荒澤分厩が設置され、2年に一度火入れ管理が行われていた。昭和に入り安比牧野組合により放牧管理が行われたが、1985年ごろ中のまきばでの放牧が休止し、植生が大きく変化し始めた。このため、2006年から八幡平市が草原再生事業を開始。2012年、安比高原ふるさと倶楽部（以下「ふるさと倶楽部」という）に業務を引き継いだ。ふるさと倶楽部は、広大な草原管理を人のみで維持することが難しいことから2014年農耕馬の再放牧による草原再生実験を開始、2016年から岩手県立大学がJRA助成事業により放牧馬を確保し放牧を継続した。これらの結果、安比高原の草原管理は一定の成果を上げつつあるが、以下のような課題があることが判明した。

①森林化の進行は止まっていない

②農耕馬の確保が難しくなっている

③地域の担い手が減少している

④科学的な調査に基づく管理と評価が行われていない。

・上記及び平成27年度の地域協働研究成果に基づき、各地の自然再生事業実施計画等を参考に長期的な保全管理目標を検討した。

長期的な保全目標としては、「安比高原の半自然草原は、千年もの長い間続いてきた草原であることが最近の研究からわかってきた。その半自然草原は、他の地域より遅く1985年頃に短角牛の放牧が休止されるまで半自然草原と人の暮らしが繋がっていたが、その後はこの関係が断ち切られてしまっている。この時代に戻ることはできないが、改めて先人の知恵と技術に学び、今の時代に適合するあらたな仕

組みを創り出すことで、半自然草原環境の再生を目指す。」とし、保全のテーマを「草原のめぐみを持続的に活かす仕組みを現代に合わせて創出し、かけがえのない安比高原の半自然草原を未来に引き継ぐ」とした。また、実施に当たり留意すべき事項として、

- ① 豊かな生物多様性を育む安比高原の自然環境を保全する。
- ② 劣化しつつある半自然草原生態系をかつて存在した在来種から構成される生態系として再生・維持し、悠々の森の目的である自然環境学習の場として役立たせる。
- ③ 半自然草原の生態系を維持するため、在来馬の放牧による適切な管理を行い、馬事文化の継承に貢献する。
- ④ 再生・維持された自然環境を活かし、ウォーキングや保全再生作業体験、自然環境学習などを行うことによって首都圏と当該地域の交流を活発化する。

このテーマの実現を目指し、上記に留意しつつ安比高原半草原の自然再生・保全を行うこととした。

次に、保全地区別の目指す姿（管理目標）と管理方針を中のまきば、焼野のまきば、奥のまきば毎に定めた。

#### 中のまきば

原状：最もシバ草原の再生が進んでいる。2014年から一部で農耕馬の放牧が実施されている。

課題：牧柵などが老朽化しつつあり、更新が必要となっている。ワラビが増加し、放牧馬に影響を与えている。ブタナ、等の外来種の侵入が始まっており拡大傾向にある。秋の野焼きについては、一か所にまとめて焼却を行っているため、地表面に大きな熱インパクトを与えている可能性がある。

目指す姿（管理目標）：1000年間維持されてきた美しいシバ草原を再生し維持する。

管理方針：馬の放牧によるシバ草原の再生を継続して行う。



中のまきば

・過放牧にならないよう植生のモニタリングを行うとともに、農耕馬の健康に配慮しつつ適切な管理を行う。

・農耕馬による管理が行えない場所については、人力による刈払い、野焼きなどの管理を行う。

・侵入したダケカンバ、ズミ等を計画的に伐採し搬出する。  
・ワラビは、馬に悪影響を与えることから人為的に刈り払いを行ない減少させる。

・既存の牧柵等については老朽化が進み、馬の脱走の危険性が高まっていることから牧柵の更新を行う。今後の管理の軽減を図る観点から牧柵の設置位置の見直しを行う。

・オキナグサ等の希少種の分布状況を明らかにし、適切な希少種の保全対策（域内保全、域外保全）を実施する。

・中のまきば内に希少種の保護増殖を行うための圃場を整備し安比高原利用者への保護の啓発、環境教育の場とする。

・外来種の駆除を行う。

#### 焼野のまきば

原状：数年に一度程度、人力による刈払いが行われていることから、ススキ草原となっている。

課題：森林化が進んでおり、草原の面積が縮小している。放牧に必要な水の確保が難しい。

目指す姿：ススキ草原、高茎草原として維持する。

管理方針：

・長期的にススキ草原、高茎草原として維持するための様々な管理方法（放牧、刈払い、火入れなど）について検討する。



焼野のまきば

・ススキの継続的な管理のため、ススキの有効利用（屋根葺き、刈敷き等）方策について検討する。

・希少種の分布状況を確認する。

・適宜巡視を行ない、分布状況の変化をモニタリングする。

・外来種の監視を行ない、外来種の侵入が確認された場合には直ちに駆除を行う。

#### 奥のまきば

原状：最も標高が高い位置にあり、距離的にも遠いことから人為的な管理が他の草原に比べあまり行われてこなかったため、周辺からダケカンバなどが侵入し森林化が進みつつある。多くの池や湿地が点在し、多様な自然が残されている。

目指す姿：池めぐり地域周辺についてはシバ草原の再生を目指す。一部は、ススキ草原、ササ草原として維持するとともに自然の遷移にゆだね森林化を進める場所を設定し、多様な環境を創出する。森林環境教育の場として整備する。

管理方針：

・草原の管理計画を策定し、シバ草原、ススキ草原、ササ草原、森林化の区域を定める。



奥のまきば

・刈払い等により森林の侵入を遅らせる。

・池沼、湿地等の多様な自然環境を保全するため、きめ細かな管理計画を策定する。

・希少種の分布状況を調査し、モニタリングを行う。

・外来種の監視及び駆除を行う

#### 2) 安比草原の事業実施計画の検討

上記保全管理目標を達成するため、2020年度の安比高原事業実施計画を策定した。

#### 3) 安比草原の持続的な維持管理のための担い手確保方策の検討

安比草原の持続的な維持管理のための人材確保方策について、八幡平市の地域おこし協力隊員からSNS等を活用して、都市の若者集客技術についてヒアリングを行うとともに、第1段階としてふるさと倶楽部の活動を若者向けにPRするためのHPを作成した。

#### 4 今後の具体的な展開

現在、本研究によって作成した基本目標等を「安比高原半自然再生基本構想」として取りまとめ、安比高原高原ふるさと倶楽部に提示した。倶楽部内部の合意形成の後、関係機関との協議を行い、ふるさと倶楽部としての長期目標として確定する見込みである。また、2020年度の事業実施計画については、折からのコロナ禍の影響でスタートが遅れる見込みではあるが、計画に沿って事業が行われる予定である。今後は毎年事業計画を策定し、計画的な管理が行われる予定となっている。